

第 15 号

2015(平成27)年 1月
NPO 法人地球市民友の会
藤沢市高倉 258 東勝寺内
☎0466-44-7570

FAX : 0466-44-0452 E メール : npo.terratomo@gmail.com HP : <http://www.terratomo.com>

新年おめでとうございます

皆様にとって実り有る良き新年であります様、御祈念申し上げます。
当会は外国籍関係者が安心して希望を持って共に暮らせることを念願し活動をして来ました。同じ町内にも外国籍関係者が大勢住んでいます。彼らの沢山の笑顔が見られます様、皆様のお力をお知恵をお貸し下さい。十人十色、文化の違いが有ってこそ日本社会を豊かにして行くことで有りましょう。時期を同じにして地球の住人と成りました上は、彼らと共に幸せへ向かっていきたい。

本年も宜しく御支援をお願い申し上げます。



平成27年 正月

NPO 法人 地球市民友の会

理事長 黒澤宗剛



「この1年元気だったよ!」「来年もがんばろう!」

～国籍を超えてつながり、広がる交流の輪～

2014年12月28日(日)、恒例の‘年末国際交流会’が東勝寺において開催された。地域に暮らす外国籍の人々(ペルー、アルゼンチン、ブラジルなど南米出身につながる人々、ベトナムや中国などアジア出身の人々など)、地球市民友の会の会員やその関係者、寺の関係者など140余名が参加、1年間の互いの無事を確認し合い、労を労い、新年を迎える英気を与え合う、そんなコミュニケーションの輪が広がる交流会であった。参加者はそれぞれ料理を持って集まった。壁際に並べられたテーブルには、国際色豊かな料理が所狭しと並べられた。

NPO 地球市民友の会理事長、黒沢東勝寺住職の挨拶、日本語教室で学んでいるペルー出身の奥間さん、中国出身の岳さんの母国語と日本語での挨拶、NPO 地球市民友の会顧問の高橋さんの日本語とスペイン語による挨拶と数カ国語での乾杯の音頭で交流会が始まった。

このあと会に花を添え、盛り上げようとボランティアで出演してくれた演技も素晴らしかつ



た。バスンダリ（バリ舞踊）、酒井久さん（コンガ演奏）、チュラソン（ラテン日系楽団の歌と演奏①）、遠藤ユウタロウ&フレンズ（ロック演奏）、アレ・ナ・イマール（ラテン日系楽団の歌と演奏②）。

今年も台風のもたらした大雨による水害や土砂崩れ、火山の噴火による災害など、大きな自然災害に見舞われた。経済状態は少しずつ上向き傾向になってきてはいるものの、より住みよい日本にしていくには乗り越えなければならないハードルがまだまだありそうだ。

しかし、ここ東勝寺では、美味しい料理や飲み物をいただき、素晴らしい演奏や歌に心弾ませながら会話がはずみ、和やかな交流の輪が広がっていくにぎやかな交流会が繰り広げられた。フィナーレが近づくと会話の輪が踊りの輪に変わり、別れを惜しむかのように会場は熱気に包まれた。国籍を超え、老若男女が一同に会して交流を深め、新年に向かってお互いにパワーを充電できた会であった。

この充実した交流会にご支援ご協力くださいました皆様に、また文教大学HOPの学生さんや企画、準備、運営等縁の下の方の力持ち的役割を担ってくださいました皆様には感謝、感謝です。



第11回ふじさわ国際交流フェスティバルに参加



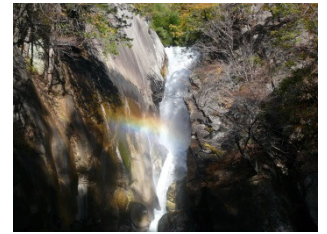
11月9日（日）、ふじさわ国際交流フェスティバルが「外国人市民と共に生きる地域社会を目指して」をテーマに、藤沢駅サンパール広場において、国際交流に関わっている団体が一同に会して盛大に開催された。ステージでは、バリ舞踊、フラダンス、南米の音楽、留学生による世界各国のクイズなどが行われた。特設のテントでは、世界各国の料理や民芸品（アメリカ、カナダ、中国、韓国、ドイツ、南米など）国際交流サロン、日本語教室案内など変化に富んだ出展があった。

地球市民友の会は「ペルーやアルゼンチンの食品紹介と販売。NPO 法人地球市民友の会の紹介と日本語友の会やMINTOMO教室のPR」を行った。今年も地球市民友の会のテントの前にはチョリソーやバーベキューチキンの美味しい匂いに引き寄せられた人々の行列ができた。



秋の山梨を楽しんだ！

日本語友の会の第1回野外教室は、圧巻の溪谷美を誇る昇仙峡と園内食べ放題のブドウ狩り等を楽しむバスツアーだった。11月15日（土）、日本語友の会教室の先生、生徒とその関係者10名は、早朝6：25湘南台駅集合、7：20横浜駅西口でツアーバスに乗り合わせ、秋の山梨を楽しむ日帰りバスツアーに出発した。好天に恵まれ、国の特別名勝の覚円峰や紅葉の昇仙峡散策、ブドウ狩り園内食べ放題、20種創作フレンチバイキングに舌鼓を打ち、充実した一日を楽しむことができた。



第5回MINTOMO交流会に参加



12月6日（土）、「いろいろな国のお友だちと楽しいイベントをつうじて、交流しましょう」をテーマに、交流会が湘南台公民館で開催された。この会はMINTOMO交流会実行委員会主催、藤沢市平和国際課、湘南台公民館、文化センターこども館共催で実施されてきたもの。実行委員会会長はNPO理事でもある望月千春さん。市民センター地下1階の各部屋では、もちつきと試食、キーホルダー作りとクリスマスカード作り、剣玉とコマの日本昔遊びが行われ、ホールでは世界の踊りや歌が披露された。市内の小学校に通う外国人市民の子どもたちと日本人児童や地域住民が集い、様々な催しを通して交流の輪が広がった。NPO地球市民友の会は「もちつき」を担当した。



メキシコからのメール#4



HOLA! Como estas?? オラ！コモエスタス？

皆さまこんにちは！お元気でいらっしゃいますか？ マリンバの古徳景子です。

今回は2年前の7月、同僚（チアパス州立芸術科学大学講師）のロベルト・パロメケ氏と参加した2013年ベルギー国際マリンバコンクール・デュオ部門の後半についてお話し致します。

限られた練習時間を経て、いよいよベルギーに出発する日が来ました。子供たちをベビーシッターと主人にお願いし、楽譜とマレットを握りしめ飛行機に乗り込みました。11時間のフライト中は、少しでも音楽を記憶したいという思いから、何度も譜面を読み歌い、一睡もできないまま、ブリュッセル空港に到着。

現地で待ち合わせていたロベルトと再会し、電車に乗り換え1時間で、かわいらしい小さな郊外 **St-Truiden** に到着しました。すぐにホテルでチェックインをすませ、コンクール会場へ向かいました。

明日、第一審査が行われる前に自分たちの練習時間を把握し、これから始まる勝負に向けてまずは腹ごしらえ。会場のそばにあるケバブ（中東地域とその周辺地域で供される、肉・魚・野菜などをローストして調理する料理）をたんと食べ2時間ほど練習し、その日は旅の疲れと共にすぐに就寝しました。

コンクール第1審査

私たちの出番は楽器の順番（マリンバはメーカーによって高さや大きさ、鍵盤の太さなどが微妙に違う為、どのメーカーで演奏するかブロックに分けられている）により最後の15番目でした。

前日練習では、ヤマハのマリンバを使用したのですが、音のノリと低音の厚さに物足りなさを感じていました。当日は、その場にあったアダムスの楽器を挑戦したところ、二人の理想に近い音が出たので、急きょこの楽器に変更しました。そのため、9時から始まった審査も6時間後の午後3時が私たちの出番となりました。ここまで来たのだから、後は相手と何よりも自分を信じるしかない。呼吸を二人で揃えていざ出陣！

13年前に受けた同じ場所で、今回はロベルトが隣で音楽を奏でるのだ！と実感がわき、なんだかワクワクした気持ちになりました。

1曲目は審査規定曲である安倍圭子氏作曲の「Wind Across the Mountain」

二人とも緊張せず、練習通りの演奏。1曲目が演奏出来た事で、2曲目の「響舞 II」も、リズムのノリに合ったダイナミックさを表現。3曲目の「Departure」も、無事に演奏する事が出来ました。

コンクールで減点とされるミスタッチや譜面の解釈などはすっかり忘れてしまい、良い演奏を心がけ、二人で奏でているコンサートのような気分で演奏しました。

演奏から1時間後、1次審査の結果が審査委員長から発表されます。受験者皆が緊張と期待に胸を膨らませながら待っていると、15組中半分である7組の名前の中に、私たちの名前も呼

び出され、ほっとした気持ちになりました。

コンクール第2審査

1次審査から2日後、7組の中からファイナリスト3組が選ばれる、重要な第2次審査が行われました。

1次審査とは違い、厳選されたレベルの高い戦いになるので、何かのミスをした時点で、もう後は無いというシビアなものです。私たちの登場は5組目となりました。

審査員の中には、世界的に有名なマリンバ奏者であり作曲家である Zickovic 氏を迎えていました。彼の曲である「Ultimatum II」を演奏。この曲の特徴であるエネルギーで音量を求めるフォルテのテクニックは、だれもが優勝したいという思いをぶつけているかのようで、私たちも負けずと最大のエネルギーで臨みました。

2曲目は1曲目とは対照的にクラシック調のやさしい曲でまとめ、3曲目はピアソラ作曲の「Tango III」はリズム感よく哀愁漂う音楽を披露しました。ところがそのタンゴを演奏中、アクシデントが発生！ マレット（撥）を空中にぶつけて打楽器の音を表現する所で力んだのか、本番中マレットが一瞬にして折れてしまいました。まだ演奏は半分以上続くので、折れた撥をすぐに新しいのに取り替えなければなりません。2小節だけ演奏が抜けましたが非常用のマレットにすぐに替え、演奏に戻りました。ロベルトはマレットが折れた瞬間から、交換出来るように、いつも以上に音量を上げ、私が抜けても分からない様に演奏してくれました。後で審査員から聞いた話ですが、マレットが折れて、替えたことを気がつかなかった人もいたそうです。そのアクシデント以外は自分達の思い通りの演奏が出来ました。が、コンクールです。この事が結果に響くのではないかと、審査発表は本当に緊張しました。

3組のファイナリストの名前が呼び出されました。1組目はフランスと日本人のデュオ、2組目はポーランド人の夫婦デュオ。私たちの名前が3組目にやっと呼ばれ、本当に肩の力が抜けました。

2日後に迫る決勝の前に、まずはここまで来られた事への祝福を兼ねて、ベルギーの名産であるカラス貝のワイン蒸しと有名なベルギービールで乾杯しました。

コンクール決勝

2次審査の翌日は、決勝曲の審査規定曲である「コンチェルト弦楽器5重奏とアンサンブル」を、練習しました。抽選で決勝の順番が2番目にあたった私たちは、練習も2番目。1番目の練習に耳を傾けながら、アンサンブルの特徴を感じ取る事が出来たので、練習もスムーズにいきました。コンサートマスターの第1ヴァイオリン奏者の女性が明確なすばらしい音を奏するので、本当に気持ち良くアンサンブルが出来ました。

2次審査に比べ、決勝当日は特にプレッシャーを感じることなくアンサンブルとの共演も楽しかったので、気を楽にして臨めました。だが、今度はロベルトにアクシデントが発生しました。彼は弦楽器とのアンサンブルが初めてで、世界タイトルまであと少しというこの時点において、陽気なメキシカンボーイが無口に成り、今まで以上にナーバスでプレッシャーを感じている雰囲気になりました。「大丈夫！だから、一人じゃないから～」と声をかけて演奏を始めました。ところが、1楽章の彼の入りが1ビート早く入ってしまい、なかなか元にもどらない。演奏を止めることは優勝を逃す事になるし、アンサンブルなので私だけが彼に合わせても、今度は弦楽5重奏と合わなくなってしまう。彼は合っていない事を感じながらも、なかなか直すこ

とが出来ない。私がスペイン語で「今から4ビート。小節数20」と声を出してなんとか修復しました。

一時はあわてたものの、その事で彼の中で何かが吹っ切れたのか、その後の演奏はパーフェクト。2曲目の自作曲「La tierra de la Esperanza」も無事演奏し終了しました。

終わった瞬間、ロベルトが「1楽章以外は優勝だね」と言った事で、私たちにやれることは全て出しきったと2人は満足しました。

さて優勝者の発表です。1次、2次の発表とは違い、厳かな舞台の中、全ての審査員が一列に並び、3位から順に発表されました。3位はポーランド人の夫婦。この時点で私たちは2位か1位。13年前の時は、あと一步ここで及ばなかった優勝。『まだ呼ばないで!!』と心の中で叫んでいました。

2位は「フランスと日本人のデュオ」。という事は、優勝したのだ!!「優勝はKeiko&Roberto」と審査委員長が呼び出す前に、ただ二人でハグをしていました。

舞台へ上がり、全ての審査員のハグと握手で祝福を受け、だんだんと実感が湧いてきました。いや～嬉しかった～～～!

コンクールの挑戦は、今までソロ演奏を追求してきた自分のほかに、「デュオ」という、新しい音楽が加わり、演奏に自信をもたらしてくれる良い経験となりました。

今回は、メキシコチアパスに住み早くも5年が経ちましたが、未だにびっくりするような文化の違いをテーマに皆さまにお伝えしたいと思います!

Hasta Pronto! アスタ プロント! それでは! またお会いできる日まで～

ことばカルチャ

「お年玉」とは何ですか?

いくつになってももらってうれしいお年玉。あなたはあげる人? もらう人? 子どもにあげる正月の小遣いをお年玉といいますが、どんな由来があったのでしょうか。お年玉は、もともとお金でなくお餅でした。でも単なる餅ではなく、それは「魂(たましい)」を象徴するものだったのです。この魂(たましい)は、生きる力とか気力の意味です。昔は、年の初めに年神様(としがみさま)から新年の魂を分けていただき、つまり、毎年一年分の力を授かると考えられていたのです。もともと正月行事は、新年の神様である「年神様」を家に迎えて・もてなし・見送るための行事です。年神様は、新しい年の幸福や恵みとともに、私たちにパワーを分けてくださると考えられてきました。鏡餅に宿った年神様の「御魂(みたま)」が「年魂」であり、「お年魂」が「お年玉」になったのです。(玉には魂の意味があります)そして、年魂をあらわす餅玉を、家長が家族に「御年魂(御年玉)」(おとしだま)として分け与えました。これがお年玉の由来! この餅玉を「お雑煮(おぞうに)」にして食べ、体に魂を取り込みました。ですから、お雑煮を食べないと正月を迎えた気がしないというのも分かる気がしますね。

NPO 地球市民友の会の紹介



同じ太陽を浴びる地球市民、みんな友だち。

来てよかった日本、住んでよかった湘南でありたい。

地球のみんなが明るく楽しい生活を送れることを
めざして活動をしています。

☆日本語友の会

日本語を必要とする外国籍の人に日本語を教えています。毎土曜日（他の曜日若干名）の午前10時から12時、東勝寺客殿において開講。（第1土曜日は休講）



☆異文化交流

日本の文化や習慣等を外国籍の人々に紹介したり、外国の文化や習慣等を紹介してもらうなど文化・芸術の振興を図り、広く交流を行う活動をしています。

◇国内外の音楽家を招いてのコンサート



◇華道教室や茶道教室

◇互いの国の文化や食べ物を通じて、外国籍の人たちと日本人との交流を図る活動（流しソーメンや年末国際交流会）



☆子ども育成・支援

外国につながる子どもたちの学習支援やスペイン語を母国語とする子どもたちに母国の文化や言語を教える活動をしています。

<子どもの学習支援>

外国籍の小、中、高校生を対象に **MINTOMO 日本語教室**（湘南台文化センター）は第1、第3土曜日の9時半から12時、**ひまわり日本語教室**（六会駅前公民館：亀井野1-5-2）は第2、第4土曜日の9時半から11時半に学習教室を開いています。内容は、初歩的な日本語指導



から学習支援などです。

＜スペイン語教室＞

外国籍の小、中、高校生を対象に湘南台公民館（土曜日）と長後公民館（月曜日）において母語としてのスペイン語教室を9：00～12：30に開講しています。



＜お泊り会＞

外国籍の子どもと日本の子どもが、相互理解を促進する活動として東勝寺を会場として1泊2日の共同生活を行っています。



私たちの活動のサポーターになってください！

また、私たちと共に活動をしませんか？

現在会員の皆様方には引き続きご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

○ 正会員 年会費2,000円／1口以上

○ 賛助会員 個人2,000円／1口以上

団体2,000円／5口以上

- ・ 正会員は活動にご参加いただける方（どの活動に参加するかは自由）
賛助会員は活動に参加できないが、活動にご賛同いただける方。
- ・ 会費は4月1日から3月31日までの1年間とします。
- ・ 会費納入につきましては、事務局（藤沢市高倉258番地 東勝寺内）に直接お持ちいただくか、下記銀行口座または郵便局にてお振り込みください（払い込み料金加入者負担の払込票を用意してあります）。

☆ みずほ銀行 湘南台支店（281）

普通預金 口座番号 1177337

口座名 トクヒ）チキュウシミントモノカイ